無線 LAN プロファイル作成ツール取扱説明書

※手順および画面は Windows XP の場合の例です。

無線 LAN プロファイルを作成する

1 プロファイル作成ツールを起動します。

［スタート］→［すべてのプログラム］（［ プログラム ］）→［I-O DATA 無線 LAN］→［QuickConnect HG］→［Profile Maker］を順にクリックします。

2



プロファイル名、SSID、暗号化設定などを設定し、［ 保存 ］ボタンをクリックしプロファイルデータ（.PFL）を任意のフォルダーに保存します。

設定項目の詳細ついては、【無線 LAN プロファイル設定ツールのリファレンス】（3 ページ）をご覧ください。

Cisco 社製アクセスポイントと接続する場合
［CCX 最適設定プリセット ］ボタンをクリックすると、作成するプロファイル設定の「CCX 設定」や「ローミング機能」の初期値が変更されます。

以上で無線 LAN プロファイルは作成できました。次に【無線 LAN プロファイルをインポートする】（次ページ）へお進みください。

注意

保存したファイル名を変更すると、無線 LAN プロファイルのインポートが失敗します。
ファイルを保存後にファイル名は、変更しないでください。

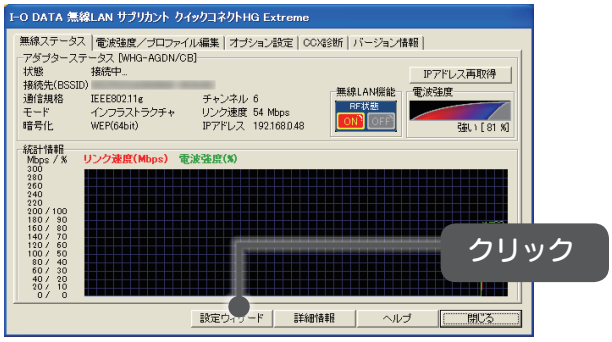
20110928-E02

無線 LAN プロファイルをインポートする

1 クイックコネクト HG を起動します。

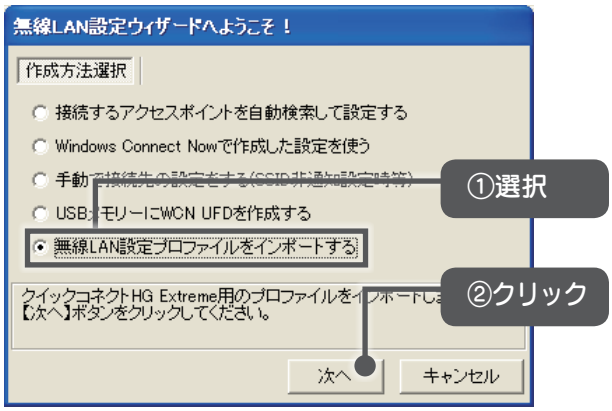
［スタート］→［すべてのプログラム］→［I-O DATA 無線 LAN］→［QuickConnect HG］→［クイックコネクト HG］（Windows 7、Vista の場合、［スタート］→［すべてのプログラム］→［I-O DATA 無線 LAN］→［クイックコネクト HG Extreme］）を順にクリックします。

2



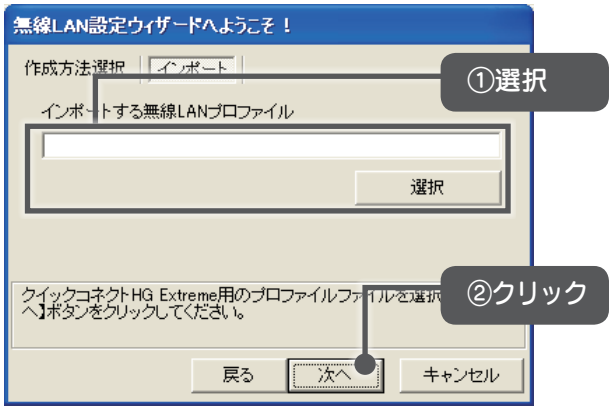
［設定ウィザード］ボタン（Windows 7、Vista の場合は、［簡単設定］ボタン）をクリックします。

3



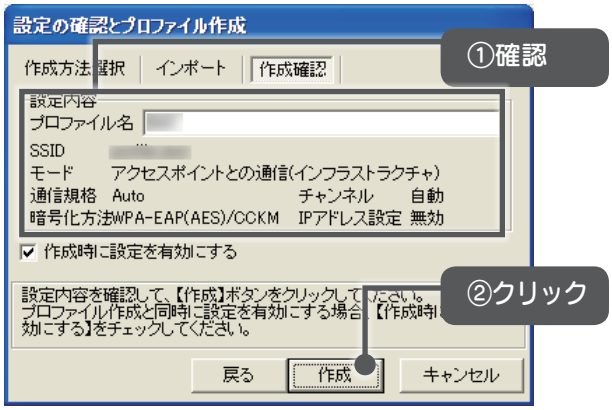
［無線 LAN 設定プロファイルをインポートする］を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。

4



［選択］ボタンをクリックし、作成したプロファイルデータ（.PFL）を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。

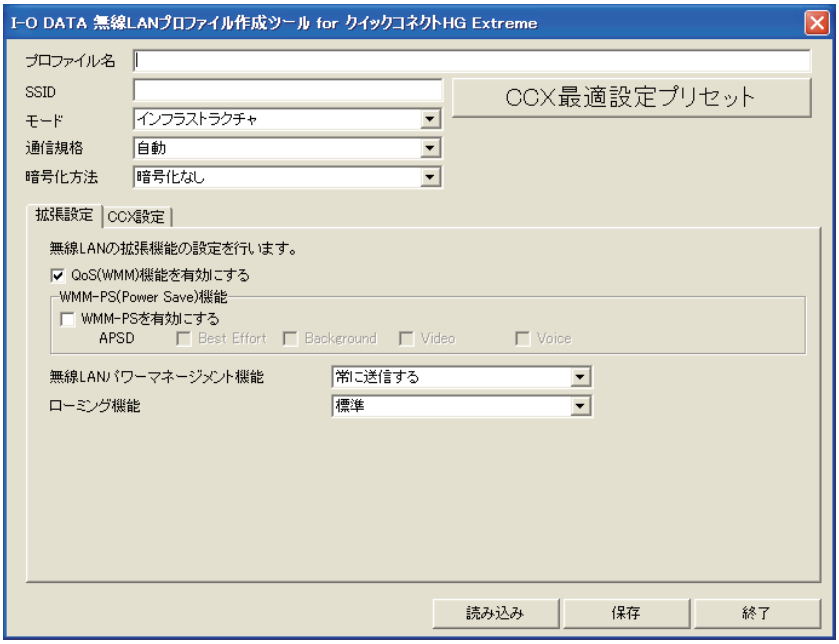
5



設定内容に間違いがないことを確認し、［作成］ボタンをクリックします。

以上で無線 LAN プロファイルのインポートは完了です。

無線 LAN プロファイル設定ツールのリファレンス



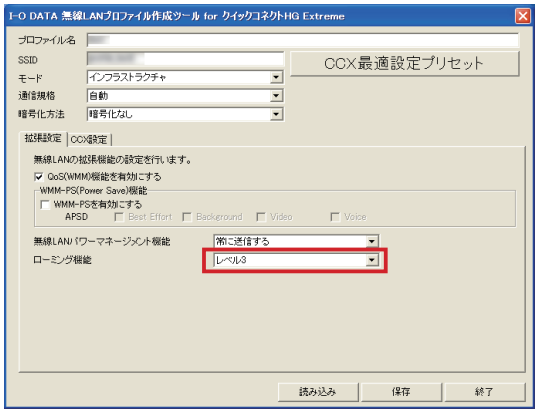
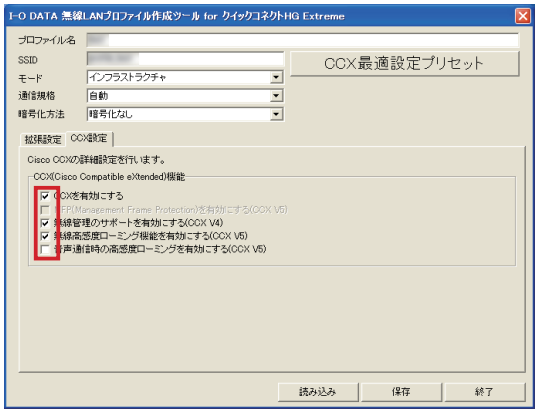
プロファイル名	任意のプロファイル名を入力します。半角 100 文字 (全角 50 文字) まで入力できます。	
SSID	接続したい無線 LAN の SSID を入力します。半角英数字で最大 32 文字まで入力できます。大文字、小文字を識別します。	
モード	接続する無線 LAN の通信形態を選択します。	
	インフラストラクチャ	アクセスポイントと通信を行う場合に選択します。
	アドホック	アクセスポイントを介さず直接 PC 間で通信を行う場合選択します。 ※ Windows 7、Vista でのアドホックは、サポート対象外となります。 ※通信相手のパソコン（無線 LAN アダプター）がアドホック通信に対応している必要があります。 ※アドホックで通信する場合、通信規格は 11a または 11g/b に限定されます。 ※アドホックで通信する場合、暗号化方法は WEP しか選択できません。
チャンネル	インフラストラクチャモード時は表示されません。 ※本製品で設定できるチャンネルは、「1 ～ 13ch」、「36,40,44,48」となります。	
通信規格	設定する無線 LAN の通信規格を以下から選択します。 自動、 IEEE802.11a、 IEEE802.11b、 IEEE802.11g、 IEEE802.11b/g、 IEEE802.11a/b/g、IEEE802.11n（2.4GHz）、 IEEE802.11n（5GHz）、 IEEE802.11n（2.4/5GHz）	
暗号化方法	接続したい無線 LAN の暗号化方法を選択します。 ※暗号化設定の詳細は、【■暗号化方法】（5 ページ）をご覧ください。 暗号化なし、WEP 64bit(Open System)、WEP 128bit(Open System)、IEEE802.1x（Open System/WEP 64bit）、IEEE802.1x（Open System/WEP 128bit）、WPA-PSK(TKIP)、WPA-PSK(AES)、WPA2-PSK(AES)、WPA-EAP(WEP)、WPA-EAP(TKIP)、WPA-EAP(AES)、WPA2-EAP(AES)、WPA-EAP(WEP)/CCKM、WPA-EAP(TKIP)/CCKM、WPA2-EAP(AES)/CCKM	

拡張設定		
QoS(WMM) 機能を有効にする	Wi-Fi 標準の無線 LAN QoS（Quality of Service）、WMM（Wi-Fi Multimedia）機能を有効にします。	
WMM-PS 機能を有効にする	WMM の拡張機能（WMM-Power Save）を有効にします。	
無線 LAN パワーマネージメント機能	電波出力の省電力機能の有効 / 無効を設定します。※通常は「常に通信する」を選択します。	
ローミング機能	ローミングの反応頻度を設定します。[CCX 最適設定プリセット] ボタンを押すと、ローミング機能の設定値が「レベル 3」に設定されます。	
	標準	接続が切断ローミングを実行しません。 ※通常は「標準」を選択します。
	レベル 1 ～ 5	レベル 1（高頻度）～レベル 5（低頻度）で、自動的にローミングを実行します。

CCX 設定	
CCX を有効にする	Cisco 社製のアクセスポイントを使用して、CCX の機能を使用する際にチェックを入れます。
MFP (Management Frame Protection) を有効にする	MFP 機能を使用する際にチェックを入れます。
無線管理のサポートを有効にする	無線管理のサポート機能を使用する場合にチェックします。
無線高感度ローミング機能を有効にする	無線高感度ローミング機能を使用する場合にチェックします。
音声通信時の高感度ローミングを有効にする	音声通信時の高感度ローミングを有効にする場合にチェックします。

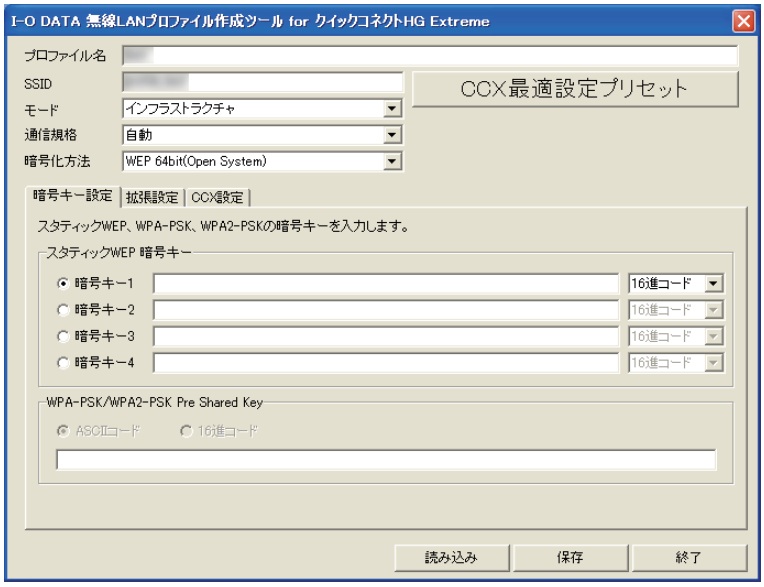
※本設定は Cisco 社製アクセスポイントを使用で、かつ CCX 機能を使用する場合のみ設定します。通常は設定する必要はありません。

※ [CCX 最適設定プリセット] ボタンをクリックすると、[CCX を有効にする]、[無線管理のサポートを有効にする]、[無線高感度ローミング機能を有効にする] が有効にチェックされます。

ボタン	
CCX 最適設定プリセット	Cisco 社製アクセスポイントと接続する場合に、CCX 機能が有効に機能するよう最適な設定をします。 ローミング機能が「レベル 3」に設定されます。 CCX 設定の「CCX を有効にする」、「無線管理のサポートを有効にする」、「無線高感度ローミング機能を有効にする」が初期値有効に設定されます。  
読み込み	無線 LAN プロファイル作成ツールで作成したプロファイルデータ（.PFL）を読み込みます。
保存	画面で設定した内容を作成したプロファイルとして保存します。
終了	無線 LAN プロファイル作成ツールを終了します。

■暗号化方法

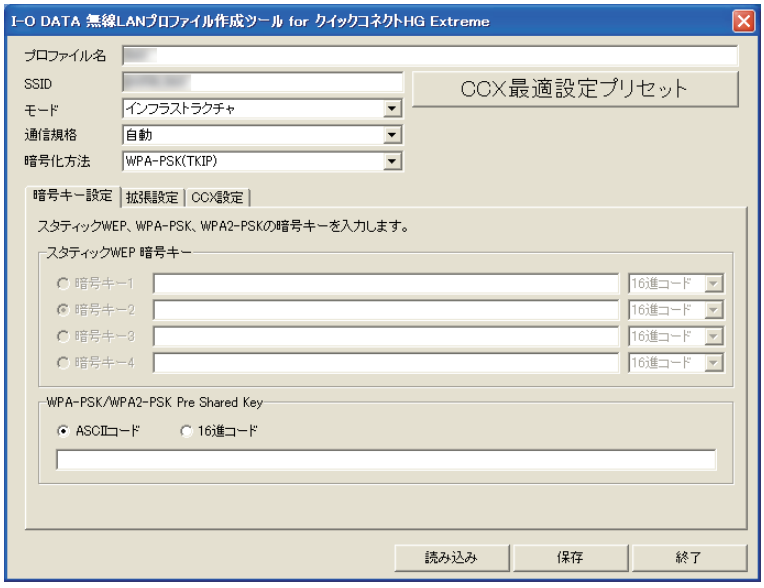
▼WEP 64bit(Open System)、WEP 128bit(Open System)　で暗号化する場合



暗号キー	画面上で指定された文字数の暗号キーを入力します。 キー先頭のラジオボタンで、使用する暗号キーの番号（1 ～ 4）を選択します。通信相手とデフォルトキーを合わせてください。（通常は 1） 入力方法を設定します。（ASCII コード、16 進コード） ■ 16 進コードの場合は、0 ～ 9 または A ～ F の文字列 ■ ASCII コードの場合は、半角英数字

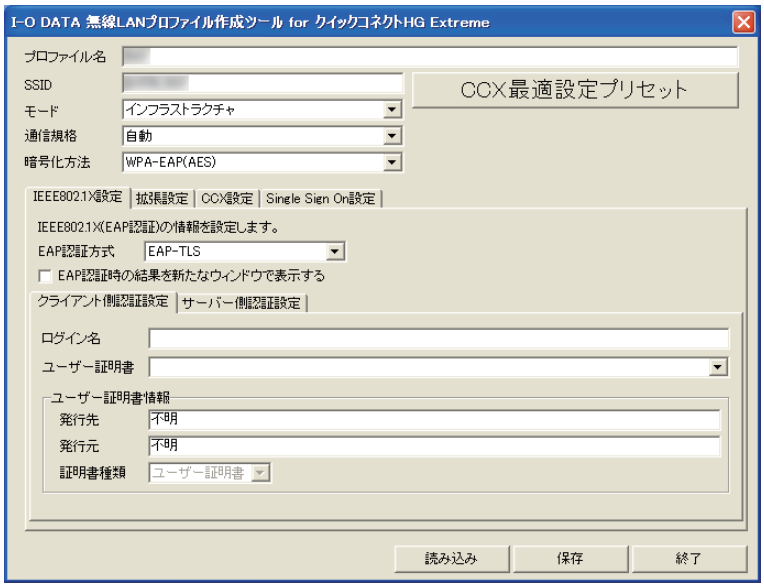
	ASCII コード	16 進コード
64bit	5 文字	10 文字
128bit	13 文字	26 文字

▼WPA-PSK(TKIP)、WPA-PSK(AES)、WPA2-PSK(AES) で暗号化する場合



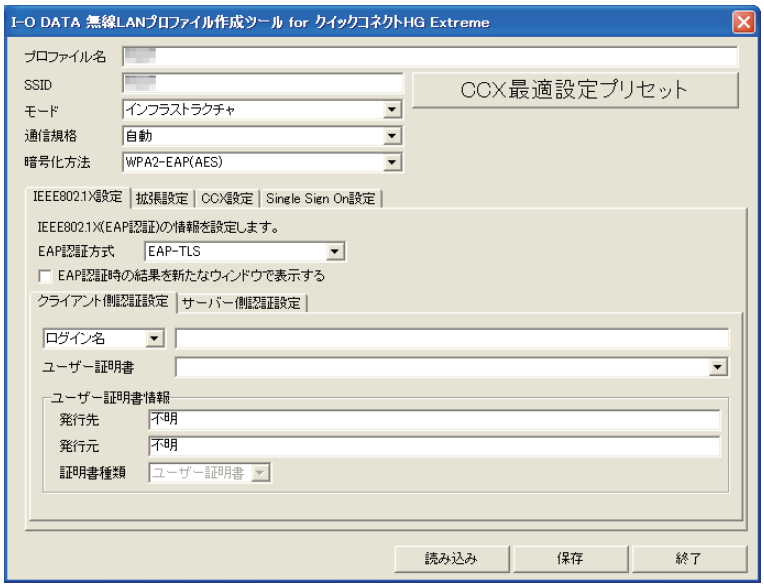
ASCII コード	8 ～ 63 文字の ASCII コード（半角英数字）を入力します。
16 進コード	64 文字の 16 進数（0 ～ 9 または A ～ F の文字列）を入力します。

▼その他の WPA-EAP、WPA2-EAP、CCKM、IEEE802.1x 認証を用いる暗号化設定を行う場合



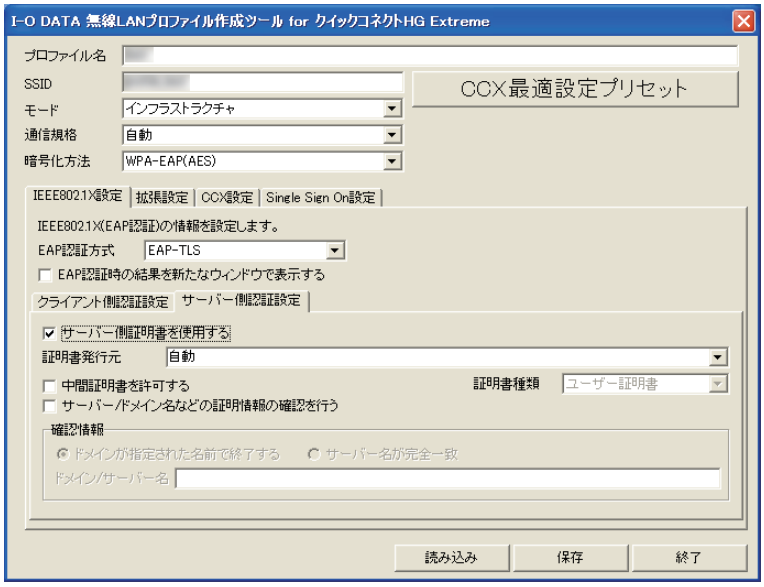
IEEE802.1X 設定	
EAP 認証方式	IEEE802.1X（EAP 認証）の認証方式を選択します。
EAP 認証時の結果を新たなウィンドウで表示する	接続結果を表示する場合にチェックを入れます。 ※本機能は、Windows XP のみ有効な機能です。

○認証方式に EAP-TLS を使用する場合



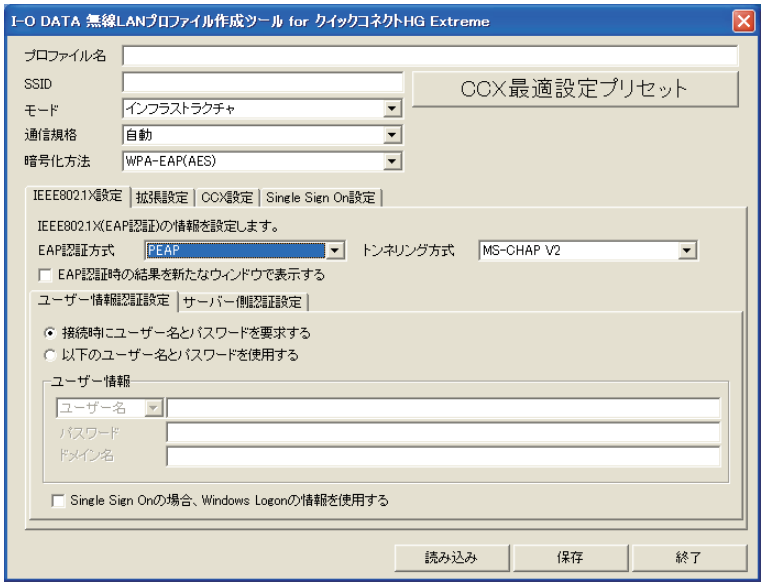
クライアント側認証設定		
ログイン名 / マシン ID/ ログイン名自動	ログイン名	[ログイン名] を選択した場合は、ネットワークログインをおこなうためのログイン名を入力します。 ※ユーザー証明書を選択すると証明書から自動入力されます。別のログイン名の場合は再入力してください。（大文字 / 小文字の区別あり。）
	マシン ID	コンピュータ認証をおこなう場合に選択します。
	ログイン名自動	コンピュータ認証とユーザー認証をおこなう場合に選択します。 ※ユーザー証明書を選択すると証明書から自動入力されます。別のログイン名の場合は再入力してください。（大文字 / 小文字の区別あり。）
ユーザー証明書	利用するユーザー証明書を選択もしくは手動で設定してください。 ※ユーザー証明書情報について 証明書発行元名 [発行先 (ユーザー) 名](M/U) M：マシン認証、U：ユーザー認証	
ユーザー証明書情報	ユーザー証明書を選択した場合は自動で表示されます。 手動設定する場合は、ユーザー証明書の情報、発行先（ユーザー名）、発行元、証明書の種類（ユーザー証明書またはマシン証明書）を入力します。	

○認証方式に EAP-TLS を使用する場合（つづき）



サーバー側認証設定		
サーバー側証明書を使用する	認証時にサーバー証明書を使用する場合、チェックをつけます。	
証明書発行元	サーバー証明書の発行元を選択します。 ※テキストボックスに入力することで手動で設定を行うことも可能です。	
中間証明書を許可する	サーバー証明書は、CA から直接発行されたものと中間 CA のひとつから発行された場合があります。この設定を行うとサーバー証明チェインで、サーバー証明書と指定した CA の間に指定されていない証明書を使用する事が可能になります。	
サーバー／ドメイン名などの証明情報の確認を行う	選択した証明書のサーバー名もしくはドメイン名が一致する必要がある場合、本設定を入力してください。	
	ドメインが指定された名前で終了する	選択した証明書に入力されたドメイン名か、サブドメイン名と一致した設定を行う必要がある場合、本設定を選択し、ドメイン名またはサブドメイン名を入力してください。 例) ドメイン名 iodata.local の場合、ドメイン名 iodata.local または、サブドメイン名 local を入力してください。
	サーバー名が完全一致	選択した証明書にされたサーバー名と完全一致した設定を行う必要がある場合、本設定を選択し、ドメイン名も含んだ完全なサーバー名を入力してください。 例) サーバー名 testsrv、ドメイン名 iodata.local の場合、test.iodata.local を入力してください。

○認証方式に PEAP を使用する場合

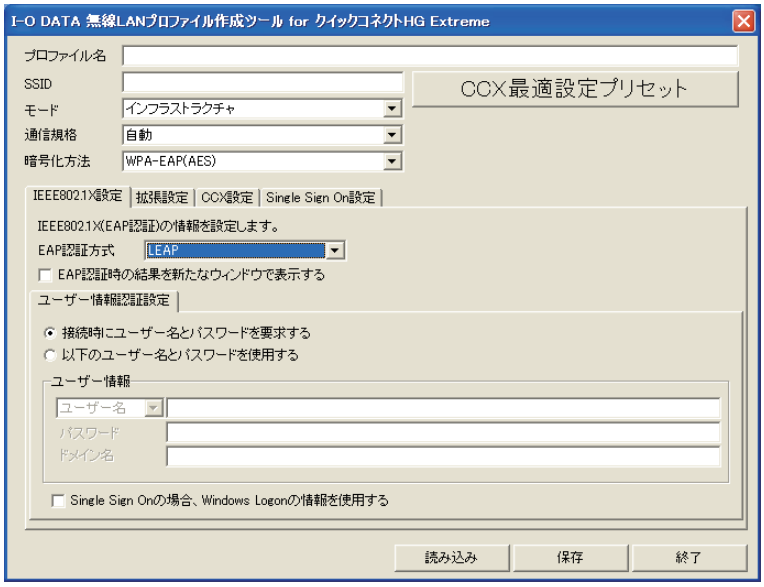


トンネリング方式	Radius サーバーで許可される方式（MS-CHAP V2、GTC）を選択します。

ユーザー情報認証設定	
ユーザー名	PEAP 認証を行うためのユーザー名を入力します。(必須)
パスワード	PEAP 認証を行うためのパスワードを入力します。(必須)
ドメイン名	PEAP 認証を行うドメイン名を入力します。 ※ PEAP のユーザー名は、プリンシパル名（ユーザー名@ドメイン名）で表記される場合があります。この場合 @ をはさんで前方をユーザー名、後方をドメインとして入力してください。
Single Sign On の場合、Windows Logon の情報を使用する	Single Sign On 時のログオン認証に Windows Logon で使用しているユーザー名、パスワードを使用する場合にチェックをつけます。

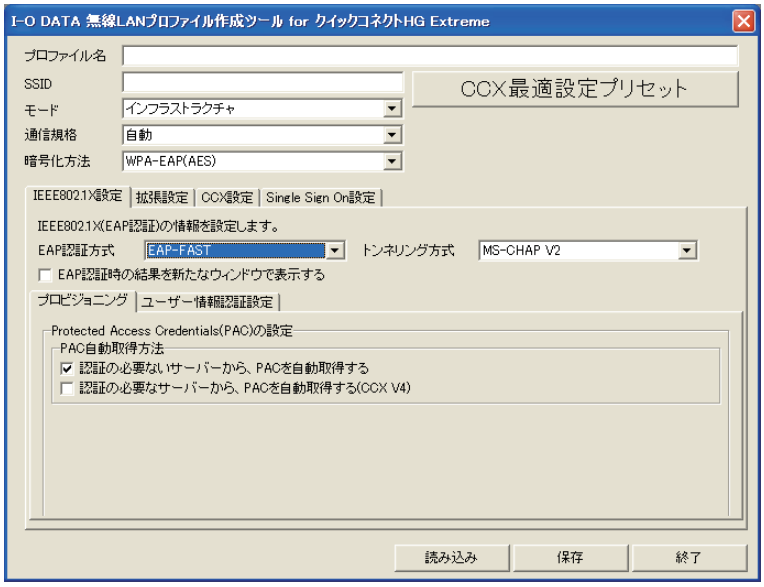
サーバー側認証設定		
サーバー側証明書を使用する	認証時にサーバー証明書を使用する場合、チェックをつけます。	
証明書発行元	サーバー証明書の発行元を選択します。 ※テキストボックスに入力すると、手動で設定できます。	
中間証明書を許可する	サーバー証明書は、CA から直接発行されたものと中間 CA のひとつから発行された場合があります。この設定を行うとサーバー証明チェインで、サーバー証明書と指定した CA の間に指定されていない証明書を使用する事が可能になります。	
サーバー／ドメイン名などの証明情報の確認を行う	選択した証明書のサーバー名もしくはドメイン名が一致する必要がある場合、本設定を入力してください。	
	ドメインが指定された名前で終了する	選択した証明書に入力されたドメイン名か、サブドメイン名と一致した設定を行う必要がある場合、本設定を選択し、ドメイン名またはサブドメイン名を入力してください。 例) ドメイン名 iodata.local の場合、ドメイン名 iodata.local または、サブドメイン名 local を入力してください。
	サーバー名が完全一致	選択した証明書にされたサーバー名と完全一致した設定を行う必要がある場合、本設定を選択し、ドメイン名も含んだ完全なサーバー名を入力してください。 例) サーバー名 testsrv、ドメイン名 iodata.local の場合、test.iodata.local を入力してください。

○認証方式に LEAP を使用する場合



ユーザー情報認証設定	
ユーザー名	LEAP 認証を行うためのユーザー名を入力します。(必須)
パスワード	LEAP 認証を行うためのパスワードを入力します。(必須)
ドメイン名	LEAP 認証を行うドメイン名を入力します。 ※ LEAP のユーザー名は、プリンシパル名（ユーザー名@ドメイン名）で表記される場合があります。この場合 @ をはさんで前方をユーザー名、後方をドメインとして入力してください。
Single Sign On の場合、Windows Logon の情報を使用する	Single Sign On 時のログオン認証に Windows Logon で使用しているユーザー名、パスワードを使用する場合にチェックをつけます。

○認証方式に EAP-FAST を使用する場合

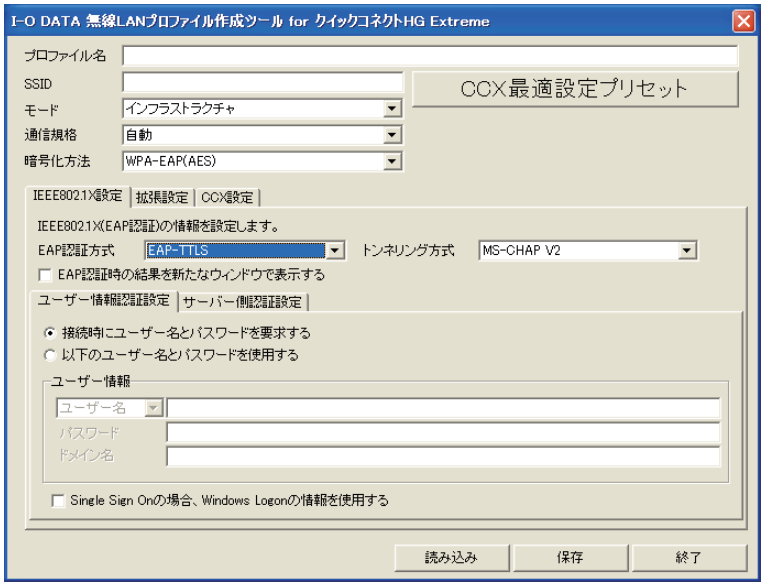


トンネリング方式	Radius サーバーで許可される方式（MS-CHAP V2、GTC、TLS、GTC(CCX V3 Mode)）を選択します。

プロビジョニング	
Protected Access Credentials (PAC) の自動取得設定	認証の必要ないサーバーから、PAC を自動取得するか、認証の必要なサーバーから、PAC を自動取得するか選択します。

ユーザー情報認証設定		
ユーザー名	EAP-FAST 認証を行うためのユーザー名を入力します。(必須)	
パスワード	EAP-FAST 認証を行うためのパスワードを入力します。(必須)	
ドメイン名	EAP-FAST 認証を行うドメイン名を入力します。 ※ EAP-FAST のユーザー名は、プリンシパル名（ユーザー名@ドメイン名）とユーザー名が設定できます。	
	プリンシパル名	Radius サーバーで情報確認をせず domain サーバーに情報を渡して確認、Radius サーバーでの認証を行う場合に入力します。
	ユーザー名	Radius サーバーにて情報確認、認証を行う場合に入力します。
Single Sign On の場合、Windows Logon の情報を使用する	Single Sign On 時のログオン認証に Windows Logon で使用しているユーザー名、パスワードを使用する場合にチェックをつけます。	

○認証方式に EAP-TTLS を使用する場合

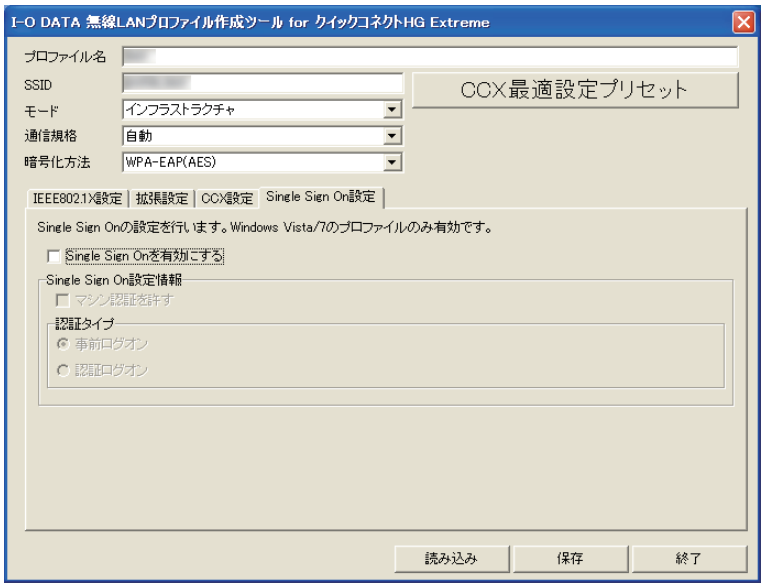


トンネリング方式	Radius サーバーで許可される方式（PAP、CHAP、MS-CHAP、MS-CHAP V2）を選択します。

ユーザー情報認証設定		
ユーザー名	EAP-TTLS 認証を行うためのユーザー名を入力します。(必須)	
パスワード	EAP-TTLS 認証を行うためのパスワードを入力します。(必須)	
ドメイン名	EAP-TTLS 認証を行うドメイン名を入力します。 ※ EAP-TTLS のユーザー名は、プリンシパル名（ユーザー名@ドメイン名）とユーザー名が設定できます。	
	プリンシパル名	Radius サーバーで情報確認をせず domain サーバーに情報を渡して確認、Radius サーバーでの認証を行う場合に入力します。
	ユーザー名	Radius サーバーにて情報確認、認証を行う場合に入力します。
Single Sign On の場合、Windows Logon の情報を使用する	Single Sign On 時のログオン認証に Windows Logon で使用しているユーザー名、パスワードを使用する場合にチェックをつけます。	

サーバー側認証設定		
サーバー側証明書を使用する	認証時にサーバー証明書を使用する場合、チェックをつけます。	
証明書発行元	サーバー証明書の発行元を選択します。 ※テキストボックスに入力すると、手動で設定できます。	
中間証明書を許可する	サーバー証明書は、CA から直接発行されたものと中間 CA のひとつから発行された場合があります。この設定を行うとサーバー証明チェインで、サーバー証明書と指定した CA の間に指定されていない証明書を使用する事が可能になります。	
サーバー／ドメイン名などの証明情報の確認を行う	選択した証明書のサーバー名もしくはドメイン名が一致する必要がある場合、本設定を入力してください。	
	ドメインが指定された名前で終了する	選択した証明書に入力されたドメイン名か、サブドメイン名と一致した設定を行う必要がある場合、本設定を選択し、ドメイン名またはサブドメイン名を入力してください。 例) ドメイン名 iodata.local の場合、ドメイン名 iodata.local または、サブドメイン名 local を入力してください。
	サーバー名が完全一致	選択した証明書にされたサーバー名と完全一致した設定を行う必要がある場合、本設定を選択し、ドメイン名も含んだ完全なサーバー名を入力してください。 例) サーバー名 testsrv、ドメイン名 iodata.local の場合、test.iodata.local を入力してください。

※以下の設定は Windows 7、Vista でプロファイルをインポートした場合のみ設定内容が有効になります。Windows XP でご利用の場合、プロファイルごとの設定はできません。



Single Sign On 設定	
Single Sign On を有効にする	作成するプロファイルでの Single Sign On を有効にする場合、チェックします。
マシン認証を許す	Single Sign On 時にマシン認証を行う場合、チェックします。
事前ログオン	Single Sign On 有効時に、Windows Logon 前に無線ネットワークへのログオンを行います。
認証ログオン	Single Sign On 有効時に、Windows Logon 時に無線ネットワークへのログオンを行います。